

信友

信友会事務局
東京都新宿区本塩町8-2
住友生命四谷ビル
電話 080-4816-3202

主な記事	
2面	通信学校長 通信団長
3面	防衛装備庁装備官 前北部方面通信群長
4面	前西部方面通信群長 前西部方面通信群員
5面	会員だより

例年上回る参加者で盛り上がる！

第五十二回総会及び通信科・信友会合同歓送迎会を挙

第五十二回信友会総会及び通信科・信友会合同歓送迎会が平成二十八年二月二十一日(日)に「第一ホテル東京(新橋)」において盛大に行われました。

最初に陸幕通信電子課長の講話から始まり、引き続き実施された総会では、平成二十七年事業報告及び平成二十八年事業計画等が審議了承されました。



合同歓送迎会

その後、信友会・現役合同の歓送迎会が挙行されました。今年度も会員・現役の皆様をはじめ、関係企業等多くの皆様のご賛同を得て、三百三十六名の出席を頂き、盛大かつ成功裡に合同歓送迎会を執り行うことができました。約二時間の会



陸幕通信電子課長講話



古希お祝い



信友会の地区懇親会は、毎年、方面通信群の記念行事祝賀会食の場をお借りして行っています。平成二十八年は、東北方面通信群創立五十六周年記念行事に併せて、平成二十八年五月十四日(土)に仙台駐屯地内において行いました。東北地区の信友会員二十八名、他方面から二十六名(うち役員十一名)の計五十四名の皆様が参加し、小松通信群長への記念品の贈呈に続き、群長自ら部隊現況の説明をいただきました。次いで信友会事業等の説明や意見交換等を行い、現役隊員及び招待者も一緒になって、久しぶりの再会に大いに語り合い、懇親の実をあげました。

東北地区懇親会実施

信友会の地区懇親会は、毎年、方面通信群の記念行事祝賀会食の場をお借りして行っています。

平成二十八年は、東北方面通信群創立五十六周年記念行事に併せて、平成二十八年五月十四日(土)に仙台駐屯地内において行いました。東北地区の信友会員二十八名、他方面から二十六名(うち役員十一名)の計五十四名の皆様が参加し、小松通信群長への記念品の贈呈に

国際社会が共有する責任

信友会会長 田中達浩



信友会会員の皆様、通信・システム等の任務に従事されている現職隊員の皆様、つつがなく平成二十九年を迎えられていることとお慶び申し上げます。

平成二十八年は、東アジアの地域では、東シナ海及び南シナ海における中国の強引な活動に加え、北朝鮮の核兵器搭載ミサイルの開発・実験が地域全体の戦略環境の安定と安全に大きな危険要因を与える状況となりました。さらに、ISIL(イスラム国と称称)に対する支配地域の制圧・封じ込めが効果をもたらした反動としてテロ活動のグローバル展開が世界各国への重要な危険要因として無視できない状況となっています。不安定不確実な情勢が依然として続いていると言えます。

加えて、ISILを始めテロリストがインターネットを最大限に悪用しています。サイバー領域を使用するテロ攻撃には、コンピュータ・システムの使用妨害のほか、人的・物的被害を伴うような各種交通システムや発電システムへの攻撃等物理的な効果を狙ったものがあります。また、主義主張の展開や残虐シーンのネット放出等による心理的、ひいては政治的な効果を狙ったものもあります。そしてテロ活動のグローバルな展開のために、戦闘員の募集、テロ活動への協力あるいは同時テロの呼びかけ・命令・指示までもがインターネットを使用して行われます。それを「デジタル・テロリズム」と表現する人もいます。現代社会は、インターネットに大きく依存しています。インターネットフリーダムの精神が技術的にも社会的にも「情報化時代」を推進してきた原動力である一方、それが善意に依存した仕組みであるが故に、これを悪用する者たちも後を絶たない状態となっているのも現実です。安全なサイバー領域の使用のために、各国の規制とプライバシーの保護のバランスの問題、サイバー領域が境界を超えた仕組みであるために必要不可欠となる国際的な協力の問題が未だ解決を見ることがなく依然として大きなテーマとなつて議論されています。特に、テロリストの活動を孤立させて、我々の社会と生活に悲劇的な結果をもたらしかねない「デジタル・テロリズム」を阻止

53回総会・合同歓送迎会のご案内

- 信友会五十三回総会及び通信科・信友会合同歓送迎会を左記の通り実施します。
- 総会では陸幕通信電子課長の講話も予定しております。
- 年に一度の懇親の場です。大いに懇談の実をあげていただきますようお願い申し上げます。
- 一日時
- 平成二十九年二月十九日(日)
- (一)総会 十一:〇〇~十一:五〇
- (二)合同歓送迎会 十二:〇〇~十四:〇〇
- 二場所
- 第一ホテル東京(前年に同じ。)
- 新橋駅(JR・銀座線・浅草線)徒歩五分
- 住所 東京都港区新橋一・二一六
- 電話 〇三・三五〇一・四四一一
- 三 会費
- 九,〇〇〇円(当日受付にて頂きます。)
- 【お願い】
- 出欠については同封のはがきでご返信ください。

「進化」

通信学校長 陸将補 滝口 龍 治



信友会会員の皆様におかれましては、健やかに新たな年を迎えられ益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃から通信学校及び久里浜駐屯地に対し多大なご支援

ご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。
平成二十八年七月一日付で第三十八代通信学校長として着任いたしました。この変革の時期に学校長として勤務できますことは、誠に光栄であるとともにその重責に身の引き締まる思いです。

平成二十八年度は、「二五防衛大綱」「二六中期防」の三年目として、統合機動防衛力の構築に向け、着実に整備が進められています。

陸上自衛隊も「強靱な陸上自衛隊の創造」を目指し、「真に戦える組織」を実現させるべく、創隊以来の大改革を推進しているところです。今後中期防で既定されている陸上総隊の新編、機動師団・旅団への改編、水陸機動団の新編、沿岸監視部隊や警備部隊の新編などにより、防衛態勢が強化されていく予定です。

情報通信分野では、専用回線の与那国島への延伸、各種の人工衛星を活用した情報収集能力の強化、高機能なXバンド衛星通信網の着実な整備、各種システムの抗たんの向上、サイバー空間における実戦的な訓練環境の整備事業等が進められており、防衛省・自衛隊におけるサイバー攻撃対処のための総合的施策にもあるように、これまで以上に高度な人材の育成が求められています。

通信学校では、新たな時代の通信科職種ビジョンを「強靱な陸上自衛隊の創造に資するシステム通信(映像、システム通信に関する兵站支援を含む)」のプロフェッショナル及びサイバー戦、電子戦のエキスパートとしてこれらを担い、将来における各種事態等の任務を完遂する職種」とし、何が不易で何が流行かを明確にした上で、職種特技を含む抜本的な改革に着手しました。

装備のシステム化およびサイバー攻撃対処のため、平成十六年にシステム防護、平成十八年にシステム運営の各課程を新設して今日まで対応してきましたが、野外通信システムの導入により更に強く認識するようになったのは、交換機等のIP化、無線機のソフトウェア化等技術進展に応じて、各特技に要求されるスキルが徐々に変質してきたことです。この傾向は、今後益々増大していくことが予想されます。

そこで、次期野外型指揮統制システムの導入等を見据えて、基本特技である無線電信、有線通信、暗号電信、搬送通信にシステム運営を加え、五つの特技をスクラッ

プ・アンド・ビルドにより、抜本的に見直すこととしました。この検討に連動して、整備特技、共通特技等その他の特技を含む特技体系全体の見直しを実施しています。これに伴い、教育訓練基準、教育態勢、教育基盤、特技転換要領等の多くの検討を引き続き行い、次期野外型指揮統制システム導入等に備えていきます。

教育面では、平成二十七年三月に野外通信システムが導入され、約一年の準備を経て平成二十八年度から器材操作教育、野外における班組訓練、小隊訓練、通信大隊訓練及び図上戦術における通信運用等すべての教育が、野外通信システムにシフトしました。したがって、作戦構想及び作戦地域の通信特性に基づきバックボーンノードを配置し、支援先部隊の運用及び広域域多目的無線機によるエリア支援を考慮してアクセスノードを近傍に配置し、支援先部隊のルーターまで回線を確保する通信運用へと変化しました。

また、平成二十八年三月に衛星幹線通信システム(可搬局)及び火力戦闘指揮統制システムが導入され、十二月には新対空レーダー装置一号の教場が完成し、平成二十九年度から逐次新装備の教育が開始されます。

通信学校は、職種ビジョンを掲げて将来への対応に大きく舵をきりました。引き続き検討を深化し、職種特技を含む大改革を推進し、新たな時代に相応しい通信学校へと「進化」していきます。信友会会員の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げますとともに、信友会の益々のご発展を祈念いたします。



野外通信システムによる訓練風景

「すぐやる 必ずやる」通信団

通信団長 陸将補 藤井 祥 一



信友会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃、私ども通信団に対し多大なご支援・ご協力を賜り、通信団全隊員を代表

して心より御礼申し上げます。
さて平成二十九年度末に陸自の中央指揮機能の強化として「陸上総隊(仮称)」が新編され、通信団も「システム通信団(仮称)」に改編され、大臣直轄から総隊隷下に編合される予定です。

単に部隊名称が変わるだけでなく、通信科職種が、システム職域を取り込み、システム通信部隊として、新しく生まれ変わります。

また、総隊隷下となることにより、市ヶ谷駐屯地におけるシステム情報通信中核を運営しつつ、各種事態におけるシステム通信運用やサイバー攻撃対処においては、総隊司令官を直接補佐し、全国のシステム通信部隊に対する所要の統制・調整機能を強化できるよう鋭意検討中です。更に、通信団においては、サイバー攻撃等脅威の増大に対応するため、副団長をPJ長として「情報セキュリティ態勢検討PJ」を編成し、各組織の個別最適状態から、各組織の情報共有要領等を検討し、通信団全体として、サイバー攻撃対処のための全体最適化を図る検討を進めています。



サイバー攻撃対処のための態勢検討プロジェクトの編成



第1回上級システム防護集合訓練
(全国から特技「上級システム防護」取得のため参加)



第1回システム防護現地訓練
(全国の有特技者が実業務により練度を向上)

この他にも、積年の眠っていた問題を明らかにし、解決しなければならぬ問題は、いま通信団に所属している者が、必ず解決して、歴代団長をはじめ諸先輩方が築かれた伝統の上に、「システム通信団」として、新たに生まれ変わった部隊となり、次の時代に申し送れるよう「すぐやる 必ずやる」通信団として、隊務を運営してまいります。

信友会会員の皆様方のご健勝と信友会の益々のご発展を祈念するとともに、今後とも変わらぬ温かいご指導とご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

防衛装備庁の近況など

防衛装備庁装備官(陸上)

陸将 川瀬 昌俊



統合運用機能の強化と防衛力整備の全体最適化を目指した防衛省改革の一環として、防衛省内の調達、研究開発などにかかる装備取得関連部門を外局として集約・統合して防衛装備庁が新設されたのは、以下の四つの目的を達成するためです。

○統合的見地を踏まえ、装備品のライフサイクルを通じた一貫したプロジェクト管理の実施

○部隊の運用ニーズについて装備面への円滑・迅速な反映

○新しい領域(防衛装備品の一層の国際化、先進技術研究への投資など)における積極的な取組

○調達改革の実現と防衛生産・技術基盤の維持・強化の両立

これらの目的については、近年、部外の有識者や現場の方々のお知恵も拝借して、研究開発や調達業務において可能なものから逐次改善を行い関係者一同それぞれの組織で達成のため努力をしてきたところです。今般の組織改革によりひとつの組織として、統合運用上必要な機能・性能を発揮する各装備品のライフサイクル全体を一元的に管理できるよう、研究開発・調達組織を再編し、事務官・技官・自衛官をスタッフとラインに混合配置することで、情報・認識共有を密にして一体感を深めて連携できる体制を構築しました。

防衛装備庁長官以下多くの職員が世界各地に出向き、あるいは各国からの来訪者と多様な可能性を考慮して接触を活発化しており、交流の場の提供にも取り組んでいます。そして海外の実情に学んで積極的に発信をし、内外のいろいろな意見に耳を傾け、テンポよく前進しようとしています。具体例としては、防衛技術戦略、中長期技術見送りや将来無人装備に関する研究開発ビジョン、

主要な装備についてライフサイクルコストの見積もりを含む取得戦略計画をとりまとめ公表するとともに、シンポジウムや研究所の公開を企画・実施しています。

研究開発については、継続中の事業を着実に進めるとともに、新規事業の開始前の広聴や代替案分析を強化し、統合運用やライフサイクル全体の視点で深化を図っています。

このような近況を踏まえ、特に従来からともに我が国の防衛力造成に寄与してきていただいた企業の皆様には、我々の改革をご理解いただき、従来以上に防衛装備庁の幅広い部門と直接情報・認識共有に努めていただき、思い込みを排して、引き続きともに未来を構築していければとお願ひしているところです。

これまで陸上自衛隊において通信科職種は、部隊運用上の通信電子ニーズを事業化時期に応じた具体的な達成目標として確立し、国内企業の方々と共に情報通信電子技術を自衛隊専用装備として育ててきました。これからは、陸海空自の統合運用により一層役立つ自衛隊装備と我が国の安全保障に寄与する諸外国への装備移転について、ニーズをとりまとめ、技術管理していくことが求められます。

加えて、人工知能やすべてのものがインターネットでつながるといった科学技術の進展をみると、自衛隊における通信電子ニーズには、通信機や映像伝送のような「入力されたもの(音声・映像・文章等)」を所望の相手に速やかにそのまま出力する仕組みを担う「から」、「必要とされる相手に適時適切に最適な出力を与えるよう入力を処理する仕組みを担う」といったものへと役割を進化すべきと考えます。

具体例としては、部隊の現状をそれぞれの立場で把握させるのに「視点と時点を媒介変数として表示させる仕組み」作りを陸上自衛隊の通信科職種は担うことを期待しています。この仕組みには、データの自動収集や膨大なデータを人工知能により解析して評価するといったことも組み込んでいくことになるでしょう。

本年も信友会の皆様のご健勝でご活躍されますよう祈念しております。

不易流行 ― 変わりゆく北方の役割 ―

前北部方面通信群長(現補給統制本部通信電子部長)

一等陸佐 岡 一博



信友会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃から我々通信科現職隊員に多大なるご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私が北部方面通信群長を拝命してもうすぐ二年が経とうとしております。この間、陸上自衛隊は「平成二十六年年度以降に係る防衛計画の大綱(平成二十五年十二月十七日閣議決定)」に基づき「統合機動防衛力」の構築に向けて防衛力整備を着実に実施しつつ、創隊以来の大改革を推進しているところです。既にご案内のとおり、この「統合機動防衛力」を実現するため、即応機動する陸上防衛力を構築するとして平素から与那国島や宮古島、奄美大島に部隊等を配置し抑止態勢を確立するほか、水陸機動団(仮称)を新編して水陸両用作戦能力を整備することとされており、南西地域における各種事態に対する実効的な抑止及び対処のための防衛力整備ばかりがクローズアップされ、以前のような「北方重視」の態勢は既に過去の話と認識されている方も多いのではないのでしょうか。

北部方面隊においては、このような安全保障環境の変化に応じて変化すべきものと、いかなる環境にあっても変えてはならない本質的なものを次のように捉えています。

その第一は、フォースプロバイダーとして、国内における各種事態に対処するため戦略的に運用される方面隊への変化です。これまでも他方面隊への部隊転用は想定されていましたが、この度の体制移行によって北方内の各師団・旅団は、機動師団・機動旅団へと改編が計画されており、新編される即応機動連隊(仮称)を海上機動等により北海道外に機動展開させるとともに師団・旅団主力も第二次展開部隊として全国に機動展開する能力を保持しておくことが必要となります。四月に発生した熊本地震では、四千二百人規模の災害派遣部隊を西方の被災地まで機動させました。

二つ目の変化は、訓練環境が比較的良好な北海道の利点を最大限に活用した訓練基盤の充実、いわゆる「北海道の道場化」を支える方面隊として新たな役割を果たすというものです。今後は本州の部隊から戦車・火炮が逐次削減されていく計画となっており、戦車・火炮等を用いた総合戦闘力を最大限発揮する訓練は北方でしか出来

なくなりません。従って、陸上自衛隊の練度を維持する上で北方が大きな役割を果たすこととなります。このため、自らも各種事態等に対処できる高い練度を保持しておくことが必要であると理解しています。

他方で、我々を取り巻く環境が如何に変わろうとも本質的に変わることのない北方の役割は、北海道で生起するあらゆる事態への抑止・対処であり、また、ロシアと国境を接する方面隊として決して隙を見せない「北の構え」の態勢を常に保持しつつ、本格的着上陸侵攻対処に代表される「総合戦闘力を最大限発揮し得る練度」を高い次元で維持し続けることです。この考え方はこれまでもこれからも変わることなく北部方面隊の部隊・隊員によって引き継がれていく最も大事な要素であると認識しています。

このように、北部方面隊は陸上自衛隊の将来態勢においても引き続き重要な地位にあり、陸上自衛隊の「基準杭」として将来にわたり「真に戦える組織」への改革を推進しつつ新たな役割を果たしていかなければなりません。

北部方面通信群としましては北部方面隊のシステム通信を担う部隊として高い練度を保持しつつ、全国の通信科部隊の「基準杭」たる部隊を目指し、日々練磨を続けて参りたいと考えておりますので、信友会の皆様方には倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



通信所の簡易掩蓋の様子

平成二十八年熊本地震災害派遣任務完遂 前西部方面通信群長(現陸幕人事計画課長)

一等陸佐 富崎隆志



一 ダブルパンチの熊本地震発生

四月十四日(木)二十一日二十時六分、益城町を震源とした最大震度七、マグニチュード六・五の地震が発生、私は直ちに自衛隊に急行した。前震の被害は、死者九名、負傷者千名以上、倒壊家屋二十軒以上上り、ライフラインの被害も多数発生した。余震も逐次減少し、収束に向かうと考えたが、十六日(土)一時二十六分、激しい揺れに叩き起こされた。本震は益城町及び西原村を震源に最大震度七、マグニチュード七・三であった。

明るくなつて被害状況が判明し、益城町の家屋倒壊状況にも目を疑ったが、衝撃的だったのは立野地区の土砂崩れで南阿蘇地区への幹線道路国道五十七号線の阿蘇大橋が完全になくなってしまったことだった。

二 西通群の災害派遣活動

(一) システム通信組織の構成・維持・運営

i システム通信組織の構成(第一期・四月十六日十八日) JTF鎮西の編成に伴い、通信統制所(NOC: Network Operation Center)を設置し、既に構成されている各部隊のシステム通信の状況を把握し、JTFとしてのシステム通信組織を計画した。将来的にデータ回線と音声回線を区分できるよう、各部隊が構成した既存の通信組織を音声回線とし、通信群で構成する野外通信組織をデータ回線として運営した。併せて阿蘇市役所、南阿蘇村役場への部外回線構成の調整を自治体及びNTTと進めた。十八日五時半、通信群の命令を下達し、同日夕、所定の通信組織を構成完了した。



ii システム通信組織の拡充(第二期・四月十九日二十四日) 当初は輻輳や断線が発生し、安定したシステム通信とはいえなかった。二十日夕阿蘇市役所、二十一日南阿蘇村役場向けの部外回線をデータ回線として、通信群の野外回線を音声回線として運営し、逐次拡充を図った。また二十四日には阿蘇市役所、南阿蘇村役場向けに広域イーサネット回線を取得し、民生器材を活用して近傍展開部隊に安定したデータ回線を構成した。野外通信組織は、撤収することなく予備回線として運営した。

iii システム通信組織の運営(第三期・四月二十五日五月九日) 災害派遣活動は人命救助から生活支援に主体が移り、システム通信組織も災害派遣活動に応じて柔軟に変更・効率化した。五月三日からは八師団主体のシステム通信組織に移行、五月九日のJTF改組をもって方面隊のシステム通信基盤を撤

収し、群主力は即応待機態勢を取った。熊本県庁の回線は維持したが、一箇月弱に及んだ通信群の災害派遣活動は一つの節目を迎えた。

(二) ヘリ映像伝送活動

十四日二十二時二分、目達原駐屯地からヘリ映像機二機が飛び立ち、阿蘇、益城、宇城、八代地区等の情報収集活動に従事した。二十三日まで日中平均七・八フライト、多い時は十一フライトの被害状況撮影をした。連続フライトにより映像伝送小隊の隊員も疲労したが、十八日以降は中部方面隊、東部方面隊からの増援により四機体制を編成でき、何とか乗り切った。

三 熊本地震災害派遣活動を振り返って

(一) 初動の混乱をいかにして局限するか

今回の災害派遣活動において、熊本地震対処計画になるものがなく、師・旅団等は独自でシステム通信組織を構成せざるを得なかった。このためNOCでは、活動部隊の通信組織を掌握し、増援部隊の通信力を把握するにあつたという間に時間が過ぎた。当初の混乱を局限するためにすべての災害派遣計画を整備するのは困難であるので、汎用性のあるシステム通信計画を策定して活動部隊に徹底することが重要である。今回は、「立ち上がり」のシステム通信は衛星回線(BGAN, CCFOS等)をもって所在駐屯地との間で系を構成するとともに、官品携帯電話で必要最小限の連絡回線を構成せよ」としたが各部隊に徹底されず、各部隊の通信の収容に時間を要した。また他方面隊の増援部隊に対して、接続装置や衛星器材等搬行してもらった通信器材をあらかじめリスト化し、共有しておく必要がある。

(二) NOCの組織化

NOCは十六日早朝、総監部通信班を主体に通信群の要員を増強して編成したが、組織的には機能していなかった。十七日には増強幕僚が通信学校、他方面隊から派遣されたが、優秀な隊員を十分に活用することができず、十九日頃になって何とか機能し始めた。したが、訓練と実オペレーションでは違っていた。いざというときに機能発揮に時間を要したことは反省点であり、要演練であると痛感した。

(三) 最後に

立ち上がりの混乱はあったものの、一連の災害派遣活動を通じて戦部隊に必要なシステム通信を提供できたと考えています。これも西通群の隊員一人ひとりのがんばりは勿論のこと、通信学校の隊長をはじめ統幕・陸幕・補給処等の通信関係の皆様、通信団長をはじめとする各級部隊指揮官の皆様のご協力の賜物であり、大変感謝しているところです。職種の枠を強く感じることができました。ありがとうございました。また関係企業の方々も我々と一緒にシステム通信組織の設計に携わってもらい、官民なく自衛隊のシステム通信関係者一丸となって遂行したオペレーションであったと思います。

熊本地震はとても不幸な出来事でしたが、地域の皆様が窮地に直面した状況において、我々自衛隊が活躍し微力ではありますが地域の安心・安全に貢献できたことは私自身とても誇りに思うところです。

陸上自衛隊通信電子の現況

一 はじめに

(一) 我が国を取り巻く安全保障環境は一層厳しさを増し、アジア太平洋地域のみならず、国際社会全体においても平和や安全、繁栄を脅かす事態が生じつつあります。我が国においては、いかなる事態においても国民の命と平和な暮らしを守り、国際社会の平和と安定にこれまで以上に積極的に貢献するため、平和と安全法制関連二法案が平成二十七年九月に成立、二十八年三月に施行され、自衛隊に対する国民の期待と要求は更に高まると考えられます。

(二) 陸上自衛隊は、体制移行の途次であり、二十八年三月、島嶼防衛(南西防衛)の一環として、与那国島に「与那国沿岸監視隊」を新編しました。今後、本格的な水陸両用作戦機能を備えた水陸機動団(仮称)の新編を計画しています。また、陸上自衛隊が強靱性をもって確実に任務を達成するため、指揮・情報・統制・システムの基盤たる通信はもとより、サイバー分野はますます重要となります。このため、環境の変化、技術の進化等に適応し、情報通信ネットワーク、サイバー戦等に係る実効性ある対応をすることともに、主要通信電子器材等を確実に整備していく必要があります。

二 サイバー空間をめぐる動向

(一) 情報通信ネットワークへの依存度が増大していく中において、サイバー攻撃は日々高度化・巧妙化してきており、その目標には情報通信のみならず電力等の社会インフラも含まれ、ひとたび攻撃を受ければ大打撃を蒙ります。自衛隊においても同様であり、サイバーセキュリティは喫緊かつ重要な課題であると言えます。

(二) 現実には諸外国の政府機関や軍隊等の情報通信ネットワークに対するサイバー攻撃は多発しており、これらの一部については、中国の人民解放軍、情報機関等の関与が指摘されています。こうしたサイバー攻撃における脅威の増大に対し、各国では関係省庁及び民間企業を含む関連組織等で各種の取組みが進められています。

(三) 我が国においては、サイバーセキュリティは安全保障上の重要な課題であるとの認識の下、政府全体で取組みを行っています。防衛省・自衛隊としては、「自衛隊指揮通信システム隊」が二十四時間態勢で通信ネットワークを監視している等、各種施策を講じています。

三 陸上自衛隊の取組み

(一) 陸上自衛隊は、強靱性をもって確実に任務を達成するため、環境の変化、技術の進化等に適応し、情報通信ネットワークに係る実効性ある対応が求められます。現在、サイバー戦に適切に対応するため、準備を推進しているところです。

最後に熊本地震で被災された皆様が、元通りの生活を取り戻すにはまだ時間が必要だと思いますが、一歩ずつ復興に向け前進して行ってもらいたいと思います。

陸幕通信電子課

整備にあつたつての重視事項の一つである「指揮統制・情報通信能力の充実・強化」を実現するため、陸上幕僚監部におけるシステム通信の運用に係る部署を強化するための改編を行います。

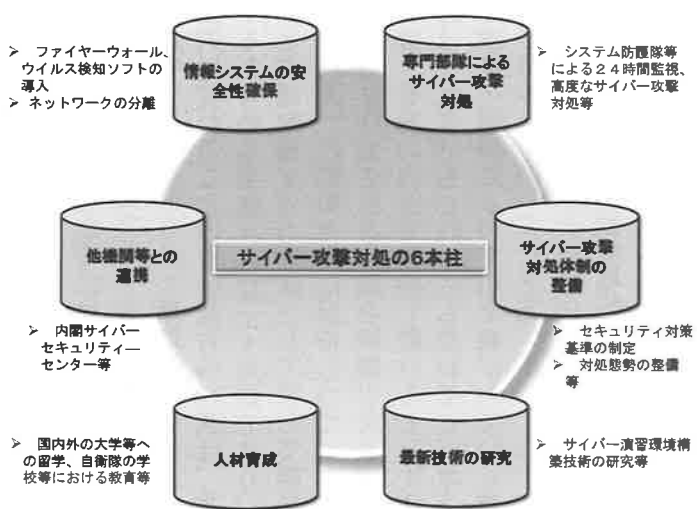
四 主要通信電子器材等の整備

(一) 平成二十八年度は、引き続き野外通信システムの骨幹装置を中部方面隊、第四師団及び中央即応集団に、また、広域域多目的無線機等を中部方面隊に導入して、迅速かつ的確な情報の伝達・共有等を行うための能力を更に強化します。また、衛星幹線通信システムの統制局を東部方面隊及び中部方面隊に、可搬局を第六師団、第十一旅団及び第十四旅団にそれぞれ導入し、即応性を更に向上させます。

(二) 師団等指揮システム(JCS)の整備は、平成二十八年度の第十一旅団及び第十二旅団への導入をもって完了します。また、主要な固定システム関連事業として、方面隊指揮システムを換装します。

五 おわりに

防衛省においては、引き続き、「二五防衛大綱」及び「二六中期防」により、わが国の防衛態勢の強化を進めるとともに、サイバー攻撃対処に向けた総合的な検討を行っているところです。通信電子課としても、同検討に積極的に取り組むとともに、陸自の野外ネットワークインフラ事業を更に推進し、陸自のC4ISR分野の充実発展に日々努力して参る所存ですので、信友会会員皆様のなご一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



防衛省・陸上自衛隊におけるサイバー攻撃対処のための
総合的施策

会員だより

歴史に学ぶ

会員 吉川 佐賢



賢者は歴史に学び、愚者は経験に頼ると言います。我が国において、義務教育や高校、大学での歴史教育は充実しているとは言えない。また、大学受験において世界史選択が二十%、日本史選択が四十%（平成二十七年年度）と何れにしても五割に満たないのです。若者の歴史への関心が低い現状に驚かされます。

何故、歴史に学ぶ必要があるのか。歴史の流れには人類が成功失敗を繰り返して、長期に亘り積み上げてきた普遍的な原則や数々の教訓があるからです。これらは、国家や社会それに人間一人一人のあるべき姿を示唆し、未来を予測する指標ともなります。原則的に、例えば歴史は繰り返すが、逆行はしないと言われていました。中国や韓国などは、日本の政治が保守化に進むと、前のファシズムを目指すとか、軍国主義の復活などと批判する。勿論悪質な根拠のないプロパガンダなのですが、歴史は逆行しないという原則を理解しておれば、そういう方向に絶対進まないという反論できるし、取るに足らない愚論と却下できるのです。

今、中国は中華帝国復興を夢見て軍拡し、力による南シナ海や東シナ海の支配を試みようとしています。

歴史は繰り返すという基本原理から、二千年前の漢、明や清の版図を更に拡張しようとしているのかもしれない。しかし、力による他国への侵略行為は、過去に多くの国が失敗したように、何れは頓挫することを歴史は教えている。また、国家間は力の均衡で成り立っていることも、歴史が示す自明の理である。力とは、主として軍事力や経済力を指すが国家としてはそのバランスが必要

です。我が国の場合、GDP世界三位の経済大国であるが、独力で自国すら守ることができない軍事的には弱小国なのです。これでは、国際社会において真の影響力は行使できないし、また、実のある貢献を果たす事もできません。経済力に見合った軍事力をもつべきな



吉田茂氏揮毫「居於治不忘乱」石碑にて（防大本館前）

のです。歴史の連続性という点で言えば、どの国にもその国特有の歴史があります。それを無視して無理矢理に断ち切ったりすると必ず反発を受け、大きな代償を払う事となる。

今、憲法改正が叫ばれているが、改正には日本の国体を基準として考えるべきです。つまり、日本国憲法を基本とし、現在の国際情勢や国情を踏まえた改正が望まれます。敗戦により日本の歴史は断ち切られたが、もう一度、古来の伝統文化に返って考えるべきです。

戦後、自虐史観がはびこり、慰安婦、南京大虐殺などの問題が日本国民を苦しめてきました。戦前日本が掲げた大東亜共栄のための八紘一宇や五族協和の精神などは軍国主義助長の悪として片づけられた。本当に悪なのだろうか。

歴史の真実を正しく認識すれば日本が素晴らしい国であることに気が付き、日本人としての誇りを持つことができるのです。特に、戦後の日本に影響を与えた近現代史を学び、日本人が成した国内外の善悪の教訓を糧とし、今後、日本の進むべき方向に生かす事が大切だと思います。

東日本大震災を体験して

会員 佐瀬 義仁



昨年の五月四日東北方面通信群の五十六周年記念式典に合せて、三年ぶりに信友会の東北地区懇親会が開催されました。この際、信友会に投稿する機会を頂きましたので、

当地、宮城県での「東日本大震災」体験について雑感をしたためたいと思います。

現役の時、平成七年の阪神淡路大震災において、東北方面通信群から災害派遣を命ぜられ、佐伯中部方面通信群長（当時）の下で通信情報センター長として、新旧通信器材の混在する災害派遣部隊のシステム設計を担当させて頂きました。佐伯群長の言葉をお借りすれば、「数えきれないトラブル」と、「いくつかの幸運」に恵まれ、全国の通信科同士と相協力して、難局を乗り切った任務でした。

そして、今度は、平成二十三年三月十一日十四時四十六分、規模マグニチュード九・〇という日本観測史上最大規模の地震に遭遇した。阪神淡路大震災では、内陸直下型で建物の倒壊や火災による被害が多かったのですが、今回の特徴は、「Tsunami」による被害が特に甚大だったことでしょう。宮城県内の死者数九千三百人、行方不明者数二千八百人そのほとんどが津波によるものでした。現在も折に触れ懸命な捜索が続いています。福島原発の事故も津波が原因で、ようやく今年、常磐道はバイク走

行禁止等の条件付きながら開通したものの、未だ復旧の見込みすら立っていない。

私は、震災当日、社用で仙台三越の向かい側のビルに居りました。比較的新しいビルだったのですが、不気味な地鳴りとともに強烈な横揺れに襲われ、五分ぐらい三段階で強さが増してくる・・・これまでと明らかに違う揺れに翻弄された。揺れが収まると自分が管理する宮城県建設産業会館が心配になり、ガラス等の瓦礫が散乱している飲食街、国分町を通って五百メートルほど歩き、やっとたどり着いたら全員ビル外に避難して、周辺はごった返していました。

建物の無事と負傷者無しということを取りあえずは安心しましたが、しかし、これからがサバイバル生活の始まりだったのです。電気は消え、駐車場から車は出せず帰宅困難者を収容して、ラジオで情報収集しながら使用可能な会議室を避難所として、電気が復旧するまでロウソクの生活を三日間続けることになりました。

自宅も心配だったので、建設業対策本部の開設や帰宅困難者の世話やらで、結局震災から約三週間帰宅できませんでした。自宅の損壊は、軽微で少し歪んでいるけど生活に支障がないのでそのまま使用しています。

震災以降、変わったことといえば、愚妻が、何かと食料等やサバイバルグッズの買い置きをしていることでしょうか！「災害は忘れた頃にやってくる」、自分の身は、自分で守る心意気は大切にしたいものです。

自衛隊にお世話になりました

会員 片桐 力



【出産祝い】「じいじのおうちにいきたい。おかあさんあしたひこうきのついでいこうか？」三歳間近の孫が、私の父の一周忌に北海道に一週間滞在してから東京に帰った後に、お母さんにだだをこねた言葉です。目に入れても痛くない



いといわれますが、本当に孫は可愛いものです。冒頭から孫の話ですみません。昭和五十六年その孫の母（私の長女）が誕生してしばらくしてだと記憶していますが、中隊長から出産祝いを頂きました。中隊長は、「うちの妻から」と言って、今は開催されていない真駒内駐屯地の雪まつり会場で、ベビー服を渡してくれたのです。え、中隊長の親睦会ではなく奥様から？若いけど出来る中隊長だとは、思っていました。奥様も心遣いの出来る素晴らしい人でした（現信友会会長の田中隊長です）。その雪まつりで中隊長が作成したのは、「ピーターパン」という題材で、若年陸曹の私は海賊船の先（マスト）の作成・維持・管理を任せられました。寒くても楽しかった雪まつりの思い出であります。

【信友会】自衛隊に入隊させて頂き、定年まで育ててもらいそして、給料も退職金も沢山頂きました。こんなにお世話になったのだから退職後も自衛隊に関わりたいたいと思うのが当たり前なので、隊友会、OB会、予備自衛官等に勿論入っておりますが、「信友会」って何？疑問符？です。私は、四年前に退職しましたが、退職直前まで「信友会」は、存知あげておりませんでした。直前に副群長から北海道各地の通信科部隊へ「信友会」に入会せよとの発信で入会しました。入会して感じたのは、何で自衛隊の通信科出身の幹部って沢山いるのにこんなに入会している人少ないのかということ。信友会ってどんなところ？何するところ？と思っている人が沢山いると思うので、もっと宣伝しなきゃ！通信学校幹部課程に入校した人たちに「信友会」の一時間の授業があったらもっと会員が増えると思います。すみません生意気な若輩者です。一度は合同歓送迎会に出席したいと思っております。

まだ幾つか自衛隊にお世話になったこと、日頃の生活、近況、感じていること等がありますが、字数に制限が御座いますので箇条書きで綴ります。

【ゴルフ・草野球】下手ながらずっとやっています。北海道の短い夏の間の土日は、ほとんど野球がゴルフ

【仕事】現金との戦い、ジムに通わなくても平日から体力錬成



事務局だより

信友会事務局は平成二十八年度も会長・副会長の指導のもと年間五回の役員会を開催し、総会・合同歓送迎会業務を中心に各種管理業務を行ってまいりました。

一 信友会総会・合同歓送迎会の開催

昨年度の第五十二回信友会総会及び通信科・信友会合同歓送迎会は、平成二十八年二月二十一日(日)に、会員・現役・企業等併せて三百三十六名の参加を得て盛会裏に終了しました。

二 地区懇親会の開催

会員相互の親睦を目的とした地区懇親会を各方面通信群等のご支援を戴きながら開催しております。

今年度は、平成二十八年五月に東北方面通信群創立記念行事に併せて開催し、会長以下役員を含め多くの会員の皆様が出席して懇親を深めました。

三 信友会ホームページの維持・拡充

平成二十八年三月をもって「信友会ホームページのリニューアル」を行いました。

この際、ホームページのセキュリティ対策が不十分というご意見があり、この度ホームページ閲覧のアクセス制限を行うことと致しました。

ホームページ閲覧のアクセス制限とは、「ホームページの閲覧には、信友会会員としてのIDとパスワードを必要とする。」というものです。

細部につきましては、同封致しました「信友会ホームページのアクセス制限(ID、パスワード)について」をご確認下さい。

尚、ホームページのアクセス制限の開始予定は、次の通りです。

平成二十九年二月一日(水)

不明な点は、信友会事務局にお問い合わせ下さい。

四 信友会役員紹介(*印 新任)

- 〔会 長〕 田中達浩
- 〔副会長〕 時津憲彦
- 〔総 務〕 長・進藤 進
- 松岡裕子・片岡博信(*印)
- 梁池雅彦・酒井郁哉
- 押川裕二・住谷正仁(*印)
- 高橋宏彰・大野浩俊
- 〔機関紙〕 長・相澤 敦
- 須藤二男・花田順一朗(*印)
- 〔名 簿〕 長・新居久佳
- 後藤高弘・島田義文
- 縄 義生(*印)
- 〔会 計〕 長・山中隆義
- 濱田正徳
- 〔監 事〕 長・長田寿彦(総務から転任)
- 小倉良太(名簿から転任)

五 編集後記

雑誌の類には「編集後記」欄があつて、編集担当者の苦労話や、裏方のエピソード、トピックなどが書かれていて、なかなか面白い。「事務局便り」は、ある意味「編集後記」である。今回も機関紙幹事の苦労話を直接聞いている。苦労話も話す相手によつては、愚痴になったりする。よく聞いてやらないと自分が愚痴るとき聞いてもらえない。相身互いである。

それはさておき、現在、事務局でホットな議論がある。こういったことは、かつての事務局の中でも何度もあったに違いない。それが表に出ることは少ないだろうが、時代の変化に対応するための努力があったればこそ、信友会が現在まで続いてきたものと思う。歴史の一端を担う責任を感じるものである。(S)

訃報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます
(H27.12.02~H28.12.01)

氏 名	逝去年月日	住 所
清水 昭三	H12.02	東 京 都
武田千代吉	H22.05.17	東 京 都
小亦 健司	H24.10.09	東 京 都
遠藤 利男	H25.	北 海 道
向谷 義頭	H26.	神奈川県
西山 和彦	H26.03.31	兵 庫 県
福嶋 忠吉	H26.04.18	埼 玉 県
林 進	H26.10.11	神奈川県
猪俣 三郎	H26.12.19	東 京 都
高橋 敏夫	H27.02.03	長 野 県
川上 正	H27.03.	熊 本 県
山田 敏雄	H27.04.07	神奈川県
望月 靖三	H27.04.27	埼 玉 県
橋場 勉	H27.05.22	神奈川県
天野 孝雄	H27.06.24	東 京 都
小島 信夫	H27.07.13	埼 玉 県
塚本 勝一	H27.07.24	東 京 都
秦 秀重	H27.07.26	東 京 都
高橋 良則	H27.08.12	山 口 県
林下 裕暢	H27.08.14	北 海 道
寺島 敏男	H27.09.03	埼 玉 県
江崎 勝	H27.12.01	熊 本 県
永田 秋雄	H27.12.17	埼 玉 県
堀内 道夫	H27.12.29	埼 玉 県
菅 収治	H27.12.31	神奈川県
池浦 博	H28.01.18	新 潟 県
功刀 忠男	H28.03.09	山 梨 県
油井 碩也	H28.03.29	神奈川県
阿久津百快	H28.05.19	群 馬 県
林 文夫	H28.07.04	大 阪 府
荒木 正臣	H28.07.11	東 京 都
柿木 貞秋	H28.09.10	埼 玉 県
水野 博之	H28.10.11	東 京 都
林田 等	H28.11.14	熊 本 県
小林 有一	H28.11.30	東 京 都
小口 誠勇	不 明	北 海 道

平成 28 年叙勲おめでとうございます

春			
瑞宝小綬章	佐藤 光武 氏	元通信学校副校長	
瑞宝小綬章	山本 忠文 氏	元補給統制本部 通信電子部長	
瑞宝双光章	林 征二郎 氏	元通信学校 訓練教官室長	
瑞宝双光章	原 聖雅 氏	元中部方面通信群	
瑞宝双光章	六鎗 英二 氏	元東北補給処	
秋			
瑞宝小綬章	岩本 哲彌 氏	元通信団副団長	
瑞宝小綬章	中村 豊 氏	元幹部学校 主任研究開発官	
瑞宝小綬章	林 忠行 氏	元関西補給処副処長	
瑞宝双光章	曾根 敏昭 氏	元北部方面通信群	

平成 28 年度信友会会計報告
(H28.01.01 ~ H28.12.31)

収 入		支 出	
前 年 繰 越	2,365,526	慶 弔 費	139,336
終 身 会 費	90,000	郵 送 等 事 務 費	43,894
通 信 等 事 務 費	1,244,000	印 刷 費	1,011,992
利 子	36	原 稿 料	32,752
第 5 2 回総会残金繰入金等	9,713	地 方 交 付	50,000
		手 数 料 等	69,792
		次 年 度 繰 越	2,361,509
計	3,709,275	計	3,709,275

以上のとおり報告します。
信友会会計幹事

監査の結果、異常ありません。
信友会 監事

平成28年12月31日
山中 隆義
濱田 正徳

平成28年12月31日
長田 寿彦
小倉 良太

信友会新入会員名簿
(H27.12.02~H28.12.01)

氏 名	最終所属	退職年月日	現住所
古庄 公德	通信団本部	H27.08.12	東 京 都
花田順一朗	通信団本部	H27.12.01	埼 玉 県
阿部喜久男	東 北 通 群	H27.12.07	埼 玉 県
縄 義生	通信団本部	H28.03.18	東 京 都
湯川 悦司	中 野 通 群	H28.03.20	神奈川県
西川 公康	通 信 学 校	H28.07.01	熊 本 県
田原 計	関西補給処	H28.07.01	埼 玉 県
石橋 修一	通信団本部	H28.11.08	埼 玉 県



合同歓送迎会新入会員紹介

ホームページのURL [http:// 信友会.jp/](http://信友会.jp/)
メールアドレス shinyukai@tune.ocn.ne.jp